

認定こども園 星の子保育園
令和4年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

＜教育・保育方針＞

- ・子ども一人ひとりを大切にする教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

＜具体的な目標＞

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和5年3月7日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

子どもたちのためにこだわりぬいた豊かな保育環境により、のびやかに過ごす子どもの姿が随所にみられた。

遊び学ぶことが十分に保障されていることはもちろんのこと、長時間過ごす生活の場として子どもたちの休息やくつろぎ・安らぎにも細やかな配慮がなされていることが伺えた。

また、保育者の子どもへの関わりは穏やかで、繊細であった。言葉が的確に小さな声で紡がれているため、園内全体が静かで子どもを含めた皆が一つ一つの行動、言葉を選び丁寧に生活している。園内の雰囲気を作る基礎は子どもに対する保育者の言葉の種類、大きさ、タイミングであることを再認識させられた。

保育理念とする「子どもの今と未来の幸せに」を念頭に、変化し続ける本園の保育の姿を実際に目にすると、保育者がよく学び専門性を積み重ね、保育理念の実現性が日々高まっていることが垣間見えた。

園の自己評価において課題としている、「応答的・対話的な保育をより豊かにする」「保育に関する記録のあり方の検討・見直しの推進」についても、年度当初から継続的に取り組み適切な振り返りがなされている。

次年度に向けて保育者の研修機会の確保充実や、新たな保育の振り返り・計画の方策を実践されるとのことにつき、更なる保育の質向上が期待される。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	応答的・対話的な保育をより豊かにする	B	子どもと保育者の応答的・対話的な関係性をより豊かにすることを念頭に保育に取り組んだ。過剰に関わることを避けつつも、適切な応答性・対話性で支援することについては、年度末の研修でもさらに学び深め、次年度へとつなげていきたい。
2	ノンコンタクトタイムの達成率向上による保育の質向上	A	ノンコンタクトとしての記録や計画、会議を行う時間を確保するため、ノンコンタクトシフトを作成し、達成率の向上を図った。これにより達成率が向上するとともに、その内容の充実を図り、結果として保育の質向上を推進することができた。
3	保育に関する記録のあり方の検討・見直しの推進	A	PDCA サイクルによる保育計画は、得てして子どもの実際の姿と乖離する側面が生じることから、子どもの姿からはじめる保育計画のカタチを模索した。 子どもの View を探しながら、観察・方向づけ・応答的な保育が紡がれるよう、保育の振り返りと計画様式を一新し、次年度の保育で取り組む。